

あかあま

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

総合印刷物企画・プランニング・デザイン・印刷・加工・オンデマンドデジタル印刷・デジタルメディア企画制作



半田中央印刷株式会社

〒475-0032 半田市潮干町1番地の21
TEL <0569> 29-2525 (代) FAX <0569> 29-4500
E-mail: main@handa-cp.co.jp <http://www.handa-cp.co.jp>

企画・制作：株式会社 新聞ビル

元氣のでてくる“ことばたち”

177

村上信夫



Nobuo Murakami

丸く腫れるとか、ステロイドの副作用はいろいろあった。高校の卒業式も出るどころがかわず、20代はほとんど自宅から出られなかった。近所で買いたく、基

す。伝統芸や武芸の中に『守破離（しゅはり）』という言葉があるんです。『守る、破る、離れる』、これは実は病気にも当てはまる。つまり最初は自分の病気にときちんと向き合って、お医者さんの話を聞いて自分でも調べて、病気に対してきちっと守っている時期がある。ある程度病気が向き合えるようになっていってから僕が何をしたらか

たという感じですね。病は気からというが、気にしなくなった時点で、病気の方もそろそろ嫌になって離れていったのかもしれない。小猫さんは、35歳という年齢にしては、すごく腹が据わって度胸があるように思える。ご本人は、たぶん今の性格の根本になっている部分というのは、間違いなく闘病時代にできてきたものだと思います。一方で病気をしていると、内向的というか、気持ちが内側に向いていくので、ある程度病気が離れていった時に、内側に向いていたベクトルを外に向けていくのが大変でした」と振り返る。

守って破って離れて

動物ものまね 江戸家小猫さん

高校3年生のアクセント
明治から続く動物ものまね・江戸家の跡取り、二代目江戸家小猫さん。祖父が三代目の江戸家猫八さん、父が四代目の江戸家猫八さん。小猫さんは、1977年生まれ。江戸家に生まれて、見よう見真似でもものまねを覚えて、7歳のころには親子3代で舞台上に立つて、自然な流れで後を継ぐと思われていた。

本的に社会復帰するような体力はなかった。ずっと自宅療養だった。

だが、1995年、高校3年生の時にアクセントに見舞われる。小学校の時にはサッカーを、高校の時はラグビーと、きわめて健康体のスポーツ少年だったが、突如ネフローゼに罹る。毎朝、腫が腫れることに気づき、病院で診てもらったらネフローゼと診断された。塩分制限をしながら、投薬治療を2か月間ほど続けた。

スポーツ少年だった小猫さんが、20代は家でじっとしていなければならぬ。よく我慢出来たと思う。よく自暴自棄にならなかつたと思う。そのことを聞くと、彼は冷静にこう答えた。「一気にどん底まで行ったわけではなくて、最初は2か月で退院できるといわれたところから、だんだんに坂を転がり落ちるように来たので、自分のメンタルコントロールをしやすかつたんです。アウトドアなことも好きなんです。絵を描くのが大好きなので、入院中は毎日のように絵を描きためてました」

という、今度は少しずつ、治療法の中や自分の生活リズムの中で破っていくことなんでしょう。それで、うまく破れて自分なりの道ができてくると、最終的には病気がからど離れていこうかと、そういう段階に入ってきたと思うんです。まったく見事なばかりの分析だ。

2か月で退院の見込みだったが、なかなか治療効果が上がらなかつた。良くなって薬の量を減らすとすぐリバウンドしてしまつた。何度も再発して、のべ1年、入院を繰り返した。強い薬を使うと効き目があつたが、その分、副作用もあつた。一番ひどいのは骨粗鬆症。骨がスカスカになり、同時に筋力も低下した。転んだわけではないのに、重力の影響で背骨の圧迫骨折で、身長が6〜7cm縮んだ。目の白内障で手術もした。ムーンフェイスといって顔が

できてしまうというのは、すごい精神力の強さだ。とても真似が出来ない。振り返ってみてがんばりすぎたということはないかと聞くと、「病気が向き合つていた時は、ちよつと数値の変化にも過敏になり、ちよつとがんばりすぎていたかなと思いま

そういう風に病気が次第に離れていくことで、病状もよくなつていった。「だんだん自分がほかのことで忙しくなつてくると、病気を忘れる時間が増えていって



俳画/イネ・セイミ

■村上信夫プロフィール
2001年から11年に渡り、『ラジオビタミン』や『鎌田實いのちの対話』など、NHKラジオの「声」として活躍。現在は、全国を回り「嬉しい言葉の種まき」(毎週日曜10:00~)、月刊『清流』連載対談〜ときめきトークなどで、新たな境地を開いている。大阪で『ことば磨き塾』主宰。1953年、京都生まれ。元NHKエグゼクティブアナウンサー。これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。著書に『嬉しいことばの種まき』『ことばのビタミン』(近代文芸社)『ラジオが好き!』(海竜社)など。趣味、将棋(二段)。
<http://murakaminobuo.com>

好評発売中
『ことばの種まき』
村上信夫



イネ・セイミプロフィール

フルート奏者として活躍中。俳画家。絵画を幼より日展画家の(故)川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元(故)村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

俳画教室開講中

常滑屋
とき 月二回 第二・第四金曜日
午後一時〜三時
会費 一回 二、二五〇円(三ヶ月分前納制)
問合せ ☎〇五六九(三三)〇四七〇

何か始めたいと思ってる貴女へ、数年後、素敵にそにありませう。楽しく個人レッスンを致します。
インディアンフルート教室
開講しました。
誰でも気軽に演奏できるフルートが、楽しく個人レッスン
入会受付中!!

講師 イネ・セイミ
(フルート奏者 指導歴30年)
1レッスン・1時間5,000円(テキスト代付)
申込み ☎0569-89-7127
お問合せ seimine@oasis.ocn.ne.jp

三代目猫八を継ぐということについては、祖父や父も諦めかけていた。本人も諦めかけていた。だが、2009年、父が猫八を襲名して、小猫の名跡が空いた。「小猫の

スペースが空いて、不思議なもので、ここに行くのは自分しかないというような気持ちで強くなりましたね。ひそかに特訓をして、お家芸の鶯を、突然お父さんの前でやってみせた。時は、2009年6月、所は群馬県の法師温泉。その時、父は何も言わなかつた。嬉しかったのは、その夜のこと。「二人で温泉に入りながら、同じ方向を向いて浸かっていたんです。父が四代目を襲名して、全国で舞台をやることが決まっていたんです。そこへ一緒に出てみようか」と言われた。父からバトンが渡された。こうして2011年3月に、二代目小猫を襲名した。

祖父は、88歳になつたら江戸家八十八を名乗ると言っていたが、叶わなかつた。今度は、父が米寿の年に八十八を名乗りたいと言っている。その年に小猫さんは還暦になる。祖父と父、小猫さんの年回りがちょうど同じなのだ。祖父が叶わなかつた夢を父と実現したいと思つている。父の八十八襲名時に、五代目江戸家猫八を襲名したいと思つている。

慈愛の人・良寛 (97) 杉本武之

良寛と宮沢賢治(その18)
◎「耳の人」だった良寛
すぐれた思想家・唐木順三は、良寛の音楽的特徴についてこう書きました。

「良寛は眼の人ではなく、むしろ耳の人であつたと私は思う。その書や歌がすぐれてリズムカルなのもそこから来ていると私は思う。音や声や調べや響きに敏感なのもそこから来ている。いわば音楽的であることが良寛の特徴である。単に彼個人の特徴であるというばかりでなく、彼にとっては実在はリズムカルである。春夏秋冬の移り変わりも、飛花も落葉も、生老病死も栄枯盛衰までもリズムカルである。そのリズムの交響の中に、彼は居る。優遊騰々として其の中にいる。或いは涙を流しながらその中に居る」

周囲の音をじつと聞き入っている情景を詠った良寛の詩を紹介しましょう。

「蕭条たり三間の屋終日人の観る無し。独り間窓の下に坐し、唯だ聞く落葉の頻りなるを」(大意―寂しい三間の庵室に暮らしています。一日中、訪れる人は誰もいません。たつた独りぼつちで、静かな窓の下で坐っていますと、ただ落葉の音がしきりにするのが聞こえてくるだけです)

「寒灯深く炭を撥きたてて、孤灯更に明らかならず。寂寞として半夜を過ぎ、唯だ聞く遠溪の声」(大意―寒い冬の囲炉裏の灰の中から炭をかき出して暖をとります。たつた一つの行灯の光も明るさを失っています。あたりはひっそりとして真夜中を過ぎ、ただ壁を通して遠くの谷川の音が聞こえてくるだけです)

「凄然、夜已に久しく、白露衣を露す。庭際何れの処にか在る、只だ聞く草虫の声」(大意―冷え冷えとした秋の夜おそく、白い露が着物を濡らせています。月が出ていな

いので庭の境目がどのあたりか分かりません。ただ周りに草の中で鳴く虫の音が聞こえてくるだけです)

「薪を担って西岑を下る、西岑、路平らかならず。時に息う長松の下、静かに聞く春禽」



維馨尼の墓(左)

◎「琴の音を愛した良寛」
「耳の人」良寛は、琴という楽器を非常に愛していました。弥彦山の北の和納村(現・岩室村)に、山岸楽斎という古方医の大家がいました。彼は

詩がたくさんあります。しかし、考えてみると、五合庵にも乙子神社草庵にも琴はありませんでしたし、良寛が琴を実際に奏でていたことは考えられません。誰かが演奏するのを聞いていたのでしょうか。それは誰だったのでしょうか。

山岸楽斎の他に、もう一人いた、と私は思っています。それは、良寛の意中の人、維馨尼です。確証はありません。しかし、琴と維馨尼とを結び付けると、良寛の琴の謎が解けるような気がします。大森千陽の漢学塾で学んでいた時、良寛は学友の三輪左市の家に遊びに行き、左市の姪のおきし(後の維馨尼)が琴の練習をしているのを見たり、その琴の音を聞いていたにちがありません。そして、淡い恋心を抱いていた彼は、この愛する乙女の琴の調べにうっとり聞き惚れていたと考えられます。楽しかった塾生の時

唐琴の名手で、庵号を鳴琴堂と名付けていました。良寛を尊敬していました。琴の好きな良寛も、托鉢の途中に立ち寄り、楽齋の奏でる妙なる琴の音に耳を傾けていました。良寛には琴に関連した漢

代も終わり、良寛は名主見習となり、突然家出を敢行します。そして、22歳の時に良寛は親の許しを得て備前玉島の円通寺に修行に行きます。維馨尼も結婚して江戸に行きます。やがて彼女は夫と死別して帰郷します。長く

に達してしまふ。天帝は大変びつくりして、この音楽がどこから聞こえてくるのか捜そうとする。時は二、三月、気候はどかで温和だ。天帝のお出ましのために、風の神は風を吹いて道を掃き清め、雨の神は雨を降らせて林を浄化する。天帝は月の暈を取ってきて車のおおいの傘にし、七色の虹を小わきに抱えて弓にする。雲の旗をひるがえし、霞の縷を垂らし、六頭の竜を御している。琴の音を尋ねて暗い地底の世界を極め、軽やかに天空を越えて行く。蓬萊の山々もたちまちにして飛び越え、天竺(インド)もあつと言う間に視界から遠ざかる。行けば行くほど音は遠くとなり、西から聞こえてくるかと思えば、突然東から聞こえてくる。そのため天帝の精神もすっかり疲れてしまい、気力も尽きてしまふ。そして、後に従う者たちを見て、「もう国に帰ろう」と言つ

この詩を読んでいると、私には、良寛の思慕の念が伝わってきます。良寛はこう訴えているのです。「私の本当の気持ちを理解してくれる人はいないのだろうか。維馨尼よ、私の切なる気持ちが分かる

「清夜草庵の裡、独り奏す没絃琴。調べは風雲に入りて絶え、声は流水に和して深し。洋洋として溪谷に盈ち、颯颯として山林を渡る。耳聾の漢にあらざるよりは、誰か奇声の音を聞かん」(大意―涼しく爽やかな夜の草庵の中で、独り静かに絃の無い琴を奏でています。その調べは風に乗って雲に入つて消えて行き、その音は流水に和して深く浸透して行きます。その音は広々と溪谷に満ちあふれ、さつと山林を渡つて行きます。耳の聞こえない人以外は、誰一人としてこの種な妙なる音を聞くことができないでしょう)

この詩を読んでいると、私には、良寛の思慕の念が伝わってきます。良寛はこう訴えているのです。「私の本当の気持ちを理解してくれる人はいないのだろうか。維馨尼よ、私の切なる気持ちが分かる



杉本武之プロフィール

1939年 碧南市に生まれる。京都大学文学部卒業。翻訳業を経て、小学校教師になるために愛知教育大学に入学。25年間、西尾市の小中学校に勤務。定年退職後、名古屋大学教育学部の大学院で学ぶ。趣味、読書と競馬。

「清夜草庵の裡、独り奏す没絃琴。調べは風雲に入りて絶え、声は流水に和して深し。洋洋として溪谷に盈ち、颯颯として山林を渡る。耳聾の漢にあらざるよりは、誰か奇声の音を聞かん」(大意―涼しく爽やかな夜の草庵の中で、独り静かに絃の無い琴を奏でています。その調べは風に乗って雲に入つて消えて行き、その音は流水に和して深く浸透して行きます。その音は広々と溪谷に満ちあふれ、さつと山林を渡つて行きます。耳の聞こえない人以外は、誰一人としてこの種な妙なる音を聞くことができないでしょう)

この詩を読んでいると、私には、良寛の思慕の念が伝わってきます。良寛はこう訴えているのです。「私の本当の気持ちを理解してくれる人はいないのだろうか。維馨尼よ、私の切なる気持ちが分かる

「清夜草庵の裡、独り奏す没絃琴。調べは風雲に入りて絶え、声は流水に和して深し。洋洋として溪谷に盈ち、颯颯として山林を渡る。耳聾の漢にあらざるよりは、誰か奇声の音を聞かん」(大意―涼しく爽やかな夜の草庵の中で、独り静かに絃の無い琴を奏でています。その調べは風に乗って雲に入つて消えて行き、その音は流水に和して深く浸透して行きます。その音は広々と溪谷に満ちあふれ、さつと山林を渡つて行きます。耳の聞こえない人以外は、誰一人としてこの種な妙なる音を聞くことができないでしょう)

「清夜草庵の裡、独り奏す没絃琴。調べは風雲に入りて絶え、声は流水に和して深し。洋洋として溪谷に盈ち、颯颯として山林を渡る。耳聾の漢にあらざるよりは、誰か奇声の音を聞かん」(大意―涼しく爽やかな夜の草庵の中で、独り静かに絃の無い琴を奏でています。その調べは風に乗って雲に入つて消えて行き、その音は流水に和して深く浸透して行きます。その音は広々と溪谷に満ちあふれ、さつと山林を渡つて行きます。耳の聞こえない人以外は、誰一人としてこの種な妙なる音を聞くことができないでしょう)

この詩を読んでいると、私には、良寛の思慕の念が伝わってきます。良寛はこう訴えているのです。「私の本当の気持ちを理解してくれる人はいないのだろうか。維馨尼よ、私の切なる気持ちが分かる

この詩を読んでいると、私には、良寛の思慕の念が伝わってきます。良寛はこう訴えているのです。「私の本当の気持ちを理解してくれる人はいないのだろうか。維馨尼よ、私の切なる気持ちが分かる

この詩を読んでいると、私には、良寛の思慕の念が伝わってきます。良寛はこう訴えているのです。「私の本当の気持ちを理解してくれる人はいないのだろうか。維馨尼よ、私の切なる気持ちが分かる

この詩を読んでいると、私には、良寛の思慕の念が伝わってきます。良寛はこう訴えているのです。「私の本当の気持ちを理解してくれる人はいないのだろうか。維馨尼よ、私の切なる気持ちが分かる

この詩を読んでいると、私には、良寛の思慕の念が伝わってきます。良寛はこう訴えているのです。「私の本当の気持ちを理解してくれる人はいないのだろうか。維馨尼よ、私の切なる気持ちが分かる

この指とまれ (208) 氏原朝信
「班別新聞」と学級通信・文集「スクラム」(14)
ぼくの妹 I・I男
ぼくは、妹と毎日ぐらいいけんかをする。原因は妹にある。だけど、いつもお母さんは妹ばかりにかたをもつ。それが気に入らなくてぼくは、すぐおこる。おこれてくると、「なんでおればかりおこられにや、あかんだ」とどなり、もんとくを言うてる。

ぼくのお兄さん S・K男
私には、お兄ちゃんがいる。お兄ちゃん、長い、足が長い」と言っている。私はそうだと思う。お兄ちゃんがおこると、

ぼくのお兄さん M・K女
私には、お兄ちゃんがいる。お兄ちゃん、長い、足が長い」と言っている。私はそうだと思う。お兄ちゃんがおこると、

ぼくのお兄さん M・T女
うちのお兄ちゃんは、とても太っていて、やらしいです。いつもクラブから戻ってきても、ばんごはんにけちをつけてから食べます。それにおかしを一人じめにします。この前、おかしをかきましたら、「おかし、どいちゃんを持ちたくない。

ぼくのお兄さん K・M男
うちのねいちゃんといけんかすると、すぐぼくをいぢめてくると、よそのおねいちゃんといけんかするとき、ぼくは手を出さないでくやし。女なら女らしくしてほしいものだ。うちのねいちゃん、つきものが違うようだ。そんなねいちゃんを持つと命がいくつあっても足りないだろう。高校に入つてスケバンにもなるかもしれない。そんなねいちゃんを持ちたくない。

料理研究家 長澤晶子のSPEED★COOKING!
自家製りんご酢
夏の水分補給に、ピネガード!リンクはいかがですか?
フルーティーな甘みとさっぱりした味は、美容と健康維持にぴったりです!!

材料
A 広口びん…1
熱湯を注いで中をよく洗い乾燥させておく。あればホワイトリカーで内側をふいておく
B りんご…2玉
皮ごときれいに水洗いして、水分をふきとり、4つ割にして芯を取り、いちよう切りにする
C 砂糖…りんごと同量
D 酢 ……600cc

作り方
①鍋にB③Cを入れDを約200cc 注ぎ中火にかける。砂糖が溶けたら火をとめる。
②①が熱いうちに④に注ぎ入れる。(ヤケドに注意)
③④の残りを鍋に入れ火にかけ、アルコールをとばす。(酢っぱさがまるやかにります)
④②の中に③を入れ、完全に冷めるまでふたはあけておく。冷めたら、ふたをして冷蔵庫で保管する。
⑤翌日より氷で割ったり、炭酸水で割ると美味しいです。
〈注意〉酢に浸かっているフルーツはまれにかびる事があるのでどうしても浮いてきてしまう場合は、小さなお皿などで落としふたをして下さい。

- ◎常滑市民文化会館
第三十回ファミリーコンサート十四日(日)開場 午後一時半 開演 同二時四十分 入場料 無料 常滑市公民館 常滑市公民館 常滑市公民館
◎常滑市民文化会館
第三十回ファミリーコンサート十四日(日)開場 午後一時半 開演 同二時四十分 入場料 無料 常滑市公民館 常滑市公民館 常滑市公民館
◎常滑市民文化会館
第三十回ファミリーコンサート十四日(日)開場 午後一時半 開演 同二時四十分 入場料 無料 常滑市公民館 常滑市公民館 常滑市公民館

- ◎企画展「片貝屋」(二十八日)
◎常滑市民文化会館
◎常滑市民文化会館
◎常滑市民文化会館
◎常滑市民文化会館

- ◎常滑市民文化会館
◎常滑市民文化会館
◎常滑市民文化会館
◎常滑市民文化会館

誠意をこめて安心のお手伝い 年中無休・24時間体制
(有)大阪屋葬祭
常滑ホール 鬼崎ホール 阿久比ホール
TEL<0569>35-4949 (代表)
FAX 35-4911

知多の新鮮たまご発酵ケイフン
(有)知多エッグ
知多郡武豊二ツ峯380
TEL0569-73-6341

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』 就職

—自分ドラマつくろう— (27) 岡田 清治

娘の就職2

「過去のことより、今日そして明日のことが大事だ」と言って真三はそれ以上の追及をさせない。

仕事をやめて夫婦といる時間が長くなる。これまで気分がなかったことが見えてくる。

「女性というものは、いつまでも過去にこだわる。それも長年の恨み辛みを繰り返す。真三も耳にタコができるほど聞かされることになった。かつてサムセット・モームの『月と6ペンス』を読んだとき、ストーリーは忘れてしまったが、女は6ペンス、つまりカネ(現実)にこだわるが、男は月、それは夢を持ち続ける動物だと解釈してきた。年寄って夫婦も同じこと。妻は過去。夫は未来を見つめて生きようとしている。夢が破れた時は死ぬ時だと思っただけだ。その点、女はどこまで行っても現実的である。もちろん例外はあるが。」

「今も東京におられるのですか」

「彼は、るり子と結婚する前からの付き合いだから、ずいぶんなる。そんなに長くですか。よほど気が合ったのですか」

「今はアメリカのワシントンDCからクルマで一時間ほどの郊外にいます。東京とアメリカを行き来している。このところ毎朝のようにスカイプ(sky)を使ってビデオ電話で話している。たぶん今は東京にいると思っ」

「朝からパソコンの前に座って何をやってるのかと思っいたら、その人と話していたのですわ」

「どくにワシントンにいる時に回数が多いのは、彼を通じてアメリカ社会の様子がわかるのだよ」

「やはり彼のように世界的な視野、とくにイスラームの世界から見ると、いままでわからなかったことが見えてくるので楽し」

「そうでしょうね」

「われわれは新聞やテレビを通じて情報を得ている。それらは、とくに欧米のニュースの多くがアメリカ発の情報なのだ」

「結局、アメリカという国が巨大な国家だということでしょうね」

「その通りだ。ソ連が崩壊して次に中国が台頭してきているが、少なくとも今世紀前半はアメリカの時代だろうね」

「日本のメディアがアメリカ情報に頼るのわかりますね」

「だけど、世界人口の約25%はムスリム(イスラーム教徒)だよ。インドでも約15%が南北インド中心に広がっている。パキスタンは96.4%、バングラデシュ90.4%がイスラームだよ。ヒンズー教の国インドへ行くにしてもイスラームの世界を理解していないといけないと思っ」

「日本人がイスラームになじみがない上に、テロのレッテルがはられていますね」

「るり子はよく疑問を發する。」

「そうだね。日本人は長いひげを生やした残酷で戦闘的な宗教的過激派でテロをやらかない男たちを連想するだろうが、彼に言わせると、それらの多くは欧米のマスコミが誤ったイメージを増幅して伝えていると言っ。とくにアメリカの映画でムスリムを悪者に描くものが多いと思うだ」

「私たち日本人は石油を中東・イスラーム世界に依存しながら、イスラームの世界を正しく理解していないようですね」

「今日にもパキスタンの友人にスカイプで予定を聞いてみる」

「だったら、何も東京に行かなくてもスカイプですか、それで聞けばいいのではな」

「やはり会ってじっくり聞きたいのだよ」

「あなたが会いたいということですね」

「ま、そんなところだ」

「真三はガイジンと話をしてから、舞に電話してドライブにでも誘っ」

「じつり話を聞くことにしようと考えた。す、机に向けて計画のメモをとった。その予定表を見ながら裕美に電話を入れ、来週末にも舞を名古屋駅に迎えに行くと言った。」



ケーブタウン全景(著者撮影)

裕美は「昨日はありがとうございました」と札を言った後、舞に伝えて電話をせんと返事をした。

真三は舞から電話がある前に、パキスタンの友人にコンタクトをとろうと、スカイプで呼び出した。ワシントンにいるなら一時間の時差だから、こちらが朝の九時なら向こうは午後八時頃だ。まだ寝る前である。外出していたら仕方ない。

パソコンでスカイプを開き、友人のアドレスにアクセスした。運よく「オンライン」と表示される。この状態ならつながる。

「もしもし、こちら善です」

「ああ、善さん、おはようございます」

「おはようございます。というところは、東京にいるのだね」

「そうだ。そう、予定を変更してあと二ヶ月ほどいることにしました」

「そうか。では今週末、東京で会えるかな」

「もちろん。善さんと会えるなら喜んで時間をあげますよ」

「そうか。では今週末の金曜日午前十時、新宿のTホテルロビーでどうだろうか。昼食を食べながら話をしたい」

「よかった。待っています」

真三は再びペンダの椅子に戻って、るり子に電話の報告をした。

海からの風も春の兆しを感じさせるように柔らかい。

「裕美さんには来週末、舞さんをドライブに誘っ」と伝えた。ガイジンの友人とは金曜日、東京で会うことにした

「忙しいですね。どうしてガイジンと呼ぶのです」

「彼の名前はムハマッド・サリム・シヤキーと言うが、ムハマッドはムスリム、つまりイスラーム名、サリムは一般名、シヤキーとはファミリー名だと思っ。言いくいのだ。彼は『ガイジンの見た日本』という本を書いているので、それで俺はミスター・ガイジンとか単にガイジンと呼んでいる。彼もそれでいいと言っのだ」

「そうですか。面白そうな本ですね。真三さんは今もその本を持っているの」

「本棚にあると思っ。後で探しておく」

「そのガイジンさん、何をされていますの」

「日本の企業に勤めながら執筆業もやる、いわば二束のワラジを履いていた。ところがあまり名前が知られてくると、会社から外部での活動を煙たがり注意された。それでも講演や執筆を休日などを利用して細々と続けていたが、ようやくこのほど定年退職となって自由の身になったので本格的に活動しようと考えているそうだ」

「日本語がお上手なですね」

「俺は何人も外国の知人がいるが、彼ほど話せてしかも日本人と同程度以上に書ける外人は見えないわ」

「そうなの」

「るり子も知っている大学教授のO氏がいるだろう。彼はアメリカ人だけど、牧師だった父親の代から日本とアメリカに住みながらアメリカでは日本史、日本ではアメリカ史を教えていたが、ある意味ええかげんだね」

「そうですか。その教授は日本語を書けたり話せたりできるの」

「いや日本語をうまく書けない。話術もいま二つなのだ。ところがガイジンの方はすごいのだが、アジア人ということで白人に比較してハンディがあったと思っ」

「O教授は大学で教えていたのですよ」

「日本語はうまくなかったが、ただ本を読めたのだらうと思っ」

「ガイジンと呼ぶ方は読み書き話す、すべて日本人と同じくらいできるの」

「そうだ。日本語、英語、ウルドゥー語(パキスタンの国語、インド亜大陸でもよく使われている)、スペイン語を話せ、いまアラビア語を勉強している語学の天才だ。しかもたよ、日本の古典も読んでるので日本人の並み以上だね」

「すごいですね」

「彼は日本語の原稿や手紙の添削を俺に頼んでくるから、彼の能力はわかる」

「手紙ですか」

「そうだよ。それだけ信頼されているのだよ」

「彼に日本語の美しさを教えられたこともあった。」

日本語は語彙の数では世界有数の言語である。最近、その日本語が汚くなったと感じるというのだ。とくに若者言葉や新語、当世流行ことばなど、ほとんどわからないぞうだ。若者言葉はいつの時代もあったし世界中にある。

「愛しあうそのときに、由紀さおりがニューヨークで日本語で歌った『夜明けのスキット』にアメリカ人は酔いしれた。日本語が美しい」と意味不明でもそう感じるぞうだ。

日本語に精通している彼は真三の好きな島崎藤村の詩初恋に感動したとも話した。

まだあげ初めし前髪の林檎のもとに見えしとき

花あきみと思ひけり

この詩を正確に感情を入れて翻訳することは難しいと話したことがある。彼は日本語には言葉が宿る(こころ)と感心したと話した。

「そのガイジンさん、日本人以上に感受性がありますね」

「彼はパキスタン人だけど、自分は、キスボジン(両国をあわせた国)になっっているぞうだ」

「どういうキスボジンの方ですか」

「覚えていて話そう」

「彼は確か一九四三年(昭和十八年)インドのウタル・プラデーシュ県(Uttar Pradesh)北国、バレーリ市(Bareilly)に生まれた。一九四七年、インド、パキスタンが分離独立(正確には八月十四日にパキスタン、十五日にインド)つまりパキスタンの独立が一日早く、彼は語者だ。」

だからインドで生まれ現パキスタン(パキスタン回教共和国)のカラチ育ちだ。真三より二歳年上になるが、国が独立するという大変な時期だったので正確かどうかわからない。カラチはパキスタンの南部に位置する最大の都市である。彼が育った頃は西パキスタンと呼ばれていた。

現在のインドを中心とする南アジア地域は、知っていると思っが、イギリスが十七世紀ごろから植民地化して支配した。だから彼からいっも植民地化された国民の屈辱について話の端々に出るが、イギリスのやり方は巧妙で現地人にも受け入れさせた。インドで随分受けつない残酷なことをしたが、インド人がイギリスやアメリカに留学することを今も誇りに思っっている。

一方、われわれ日本人は朝鮮や台湾を植民地化したことばあっても植民地化されたことばない。日本の現地のやり方(言葉、名前の変更を強いたことなど)は欧米人に比べて下手で、とくに韓国は同じアジアの隣国だけに日本人に対する恨みはパキスタンのそれよりも複雑だと感じるね。



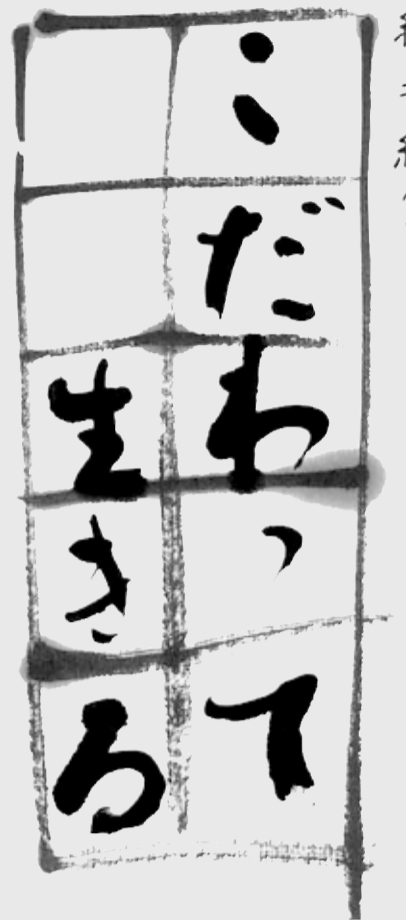
プロフィール

著者：岡田清治おかせいじ

一九四二年生まれ ジャーナリスト(編集者)ロダクション・NET108代表著書に『高野山開創二百年 いっぱいさん行状記』『心の遺言』『あなたは社員の全能を引き出せますか』『リヨンで見た虹』など多数

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を左記のFAXかメールでお寄せください。今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。FAX：0569-34-7971 メール：takamitsu@akah-shinbun.net

絵手紙集



絵文 樫山善久

返文 小林玲子

樫山善久

昭和十一年碧南市で生まれる。丸栄陶業株式会社代表取締役。碧南商工会議所会頭。愛知県陶器瓦工業組合理事長。全国陶器瓦工業組合連合会理事長などを歴任。平成十三年藍綬褒章受賞。平成二十二年旭日小授章受賞。丸栄陶業株式会社取締役会長 現在に至る。京都造形芸術大学・通信教育部芸術学部美術科・洋画コース三年次在学中。

小林玲子

碧南市に育つ。西尾市在住。共著「西尾の民話」童話「サケの子ピッチ」随筆「海辺のそよ風」(中経コラム「閑人帳」より) ミュージカル脚本 「みぐりちゃんのおうち」ほか



百日紅
凛と咲きたる
紅と白

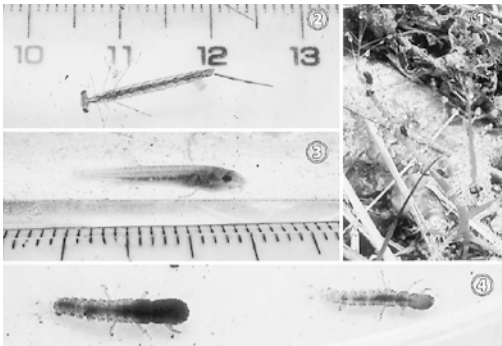
日着中お見舞い申し上げます。
去る七月三日樫山善久叙勲祝賀会にぜひぜひお運び
くださいました。皆林チからお祝いの言葉を頂戴しまして
私は生涯最高の日になりました。この機会とふたご頂き
ましたのも皆様のこのお祝いとご支援があつたことありまして
心よりお礼申し上げます。私の冥途頂は「くだわり」です
これからの人生も今までの生きたり変えることが出来ないと
思っています。本年三月末幸にして社長を後継者に譲りました
私たちの世代は昭和の戦中戦後から現代まで波瀾万丈の
人生を精一杯生きてまいりました。この貴重な体験を次世代の
人に伝えて行きたいと思っております。
まずは、祝賀会にご出席お礼のご挨拶まで。感謝

暑さに参って怠惰な毎日に喝を頂いたよ
うな力強い確かな描写の絵手紙を拝受し
流石流石と眺め入っております。
画も書もご人格の表われとよく解ります。
人生の新たなご出発の意志を感じます。
これからも凛々と鈴を振り鳴らす如き
生き方をされますよう奥様共々ご健勝に
てお過ごし下さいませ。
すばらしいお作を本当にありがとうございます。

知多の動植物雑記(二九八)

原 穰

先月号で記したのは、我が世の春がやって来た... 川を探索すれば、草花の若芽や、孵化したばかりと思



わが世の春が、今もなお

光り輝いている。水玉のように。見れば、粘液に。よって捕らえら。れた虫が三、四匹もくっついて

で採ったもの、一部。②はイトトンボの幼虫。写真で見ると通り、胴体の長さは大きても一、五センチほど

美の回廊 Vol.4

水野 伊津子 「絵に魅せられて・心のままに…」

絵を見る 皆さんは年に何度くらい展覧会に行かれるでしょうか? いや〜日展くらいかな? 親戚の人が絵を描いているんで義理で行く。僕は印象派が好きだから、いい作品が来たときは必ず行くよ。

でも、展覧会に行くと疲れませんか? それは、特に混んでいる展覧会でも言えることですが、歩き方に問題があるんです。絵を見るときには立ち止りますよね。そしてしばらく見たら、2・3歩進み、また立ち止る。この歩き方をしていると、だんだん集中力が切れてきて、頭が働かなくなります。5室も6室もある展覧会場では覚えているのは最初の部屋くらいなものです。大きな展覧会で第1室に大御所の先生が並んでいるのはそのせいかなと思います。展覧会に行かれましたら、まず遠目でいいですから、早歩きで立ち止らずにすべての絵をざっと見る。(出品者の方には申し訳ないですが)そして、第一印象で心に残った作品の位置を覚えておきます。そして、改めてもう一度最初から回るので。下調べがしてあるので、気に入った絵のところへ一直線。今度は時間をかけてじっくり見ます。心ゆくまで好きな作品に

対峙できます。もう一つ まずは、自分の価値観で見る。この絵が欲しいという目で見るということです。この絵ならお金を出してもいいと思える作品は、いくつあるでしょうか? 有名だからとか、賞がついてるとか、芸術的にどうかではなく、欲しいか欲しくないか見ると展覧会は大変おもしろくなります。私自身は評論家の先生よりも、絵なんか全然興味ないといった人の意見のほうが参考になります。このリンゴはうまそうだなとかこの女性は僕の好みだとかいう人は、自分の好き嫌いで判断しているからです。絵描きにとって、こういう人にこれは好きな絵だと言ってもらえたら、それ以上の賛辞はありません。

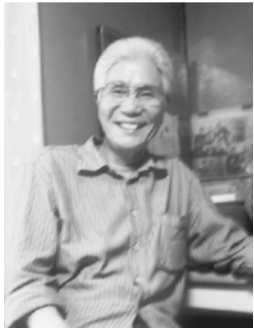
私が大好きな作家。 アメリカを代表する画家 エドワード・ホッパー (1882~1967) 彼の作品の多くは、何の変哲もないアメリカの日常風景やそこに生きる人々なのですが空間を多く取った独特の描き方は、ある種の郷愁と、絵の世界に自分が入りこんでしまうような錯覚を抱かせます。



「ガソリンスタンド」 夕暮れの人気のないガソリンスタンド、経営者なのか孤独感ただよう一人の老人、森は深く外界を遮断しているように見えます。この絵を見ていると舞台装置のように次の場面を想像してしまいます。

ちよつとおじやまします

常滑陶芸会会長 齋田 清さん



齋田さんの人生に彩りを加えてくれたのは焼き物だった。退職後陶



さんは小さくて、温かさが感じられる。じつと眺めていると、とある4歳の男の子を思い出した。私が出逢った男の子は、ほつぱたがぶくつとして、育ちの良さからか、品格が備わっている可愛い子なんだ。なぜだろ

いへんと

- 常滑陶芸会 常滑市公民館 常滑市文化センター 常滑市立図書館 常滑市立中央公民館 常滑市立図書館 常滑市立中央公民館...

若竹俳壇

作品募集 毎月十日までに集めて

六月の海きらきらと輝けり 招き猫もわかれて行く青時雨 新築の槌音響く梅雨晴間 近付きで篝火熱く北陸路

- 吉田ひろし 富田悦子 桑山撫子 藤崎ひとみ 藤井文子 清水下久吉 杉江久美 船坂兼夫 平野紀江 磯村美穂子 澤田藤子 村井みさを 中尾節也 古川三恵子 岩田三子 竹内三千彦 谷川和利 杉山千鶴 塚本千鶴 村田政子 片岡志江 関根光江 齊藤浩美 加藤久子 荒川達雄 渡辺博子 山本信子 都築信子 竹内艶子 服部洋子 中村洋子

MIHAMA 花火大会 「ビッグバン2013」 開催日程 8月10日(土) 19:00~20:30 ※雨天・荒天時は翌日(日)に延期 開催場所 美浜町・小野浦海水浴場(愛知県知多郡美浜町大字小野浦字西川) 打上発数 10,000発

